



2010年2月25日

各位

会社名 イオン北海道株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 植村 忠規  
 (コード番号 7512 東証1部・札証)  
 問合わせ先 取締役執行役員  
 管理本部長 天廣 俊彦  
 (TEL 011-865-9405)  
 当社の親会社 イオン株式会社  
 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也  
 (コード番号 8267 東証1部)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2009年4月6日の決算発表時に公表した2010年2月期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

記

#### 1. 2010年2月期通期個別業績予想数値の修正 (2009年3月1日～2010年2月28日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	151,000	1,525	925	220	2円12銭
今回発表予想 (B)	150,074	2,000	1,377	618	5円95銭
増減額 (B-A)	△926	475	452	398	
増減率 (%)	△0.6	31.1	48.9	180.9	
(ご参考) 前期実績 (2009年2月期)	156,850	1,148	890	△2,040	△19円66銭

#### 2. 修正の理由

第4四半期につきましては、消費者心理が冷え込みデフレ傾向が続く中で競合との競争に打ち勝つため販売価格の見直し、生鮮食料品の強化、衣料品を中心とした地域対応商品の拡大を行い来店客数の回復に取り組んでまいりました。特に年間での最大商戦となる12月については「セール強化」「重点商品の販売」「利益率のアップ」「経費削減」「空床の有効活用」と5つのプロジェクトを編成し全社を挙げて利益確保に取り組んだ結果当初の計画数値は確保することができました。

結果、第1・第2四半期と比較して、特に衣料品、住居余暇商品の客数が顕著に伸びており第4四半期の既存店客数前年比は102.4%、また既存店売上高前年比も97.7%を確保できる見込みであります。

第4四半期の荒利益につきましては、衣料品の投入時期と見切りを早め在庫日数を7日間短縮したことにより、シーズン商品の入替もスムーズに行うことが出来ました。また、食品の発注精度アップ等に取り組んだ結果、廃棄売変を削減し、売変率を0.7%改善したこと等により、荒利益率は0.4%改善することが出来る見込であります。

経費については、人員配置の見直し・所定内勤務を基本とした労働時間管理の徹底による人件費の削減、また水道光熱費を中心に使用量の削減・契約の見直しを行い、設備費を削減いたしました。その結果、予算及び前期と比較し継続的に削減できており、第4四半期の販管費トータルで既存比94.6%を見込んでおります。

これらの取り組みの結果、当期の売上高は1,500億74百万円(前期比95.7%)、営業利益20億円(前期比174.2%)、経常利益13億77百万円(前期比154.7%)、当期純利益6億18百万円(前期より26億58百万円の改善)となる見込みで、営業利益・経常利益・当期純利益ともに当初予想を上回る予定であります。

以上